

京まち工房

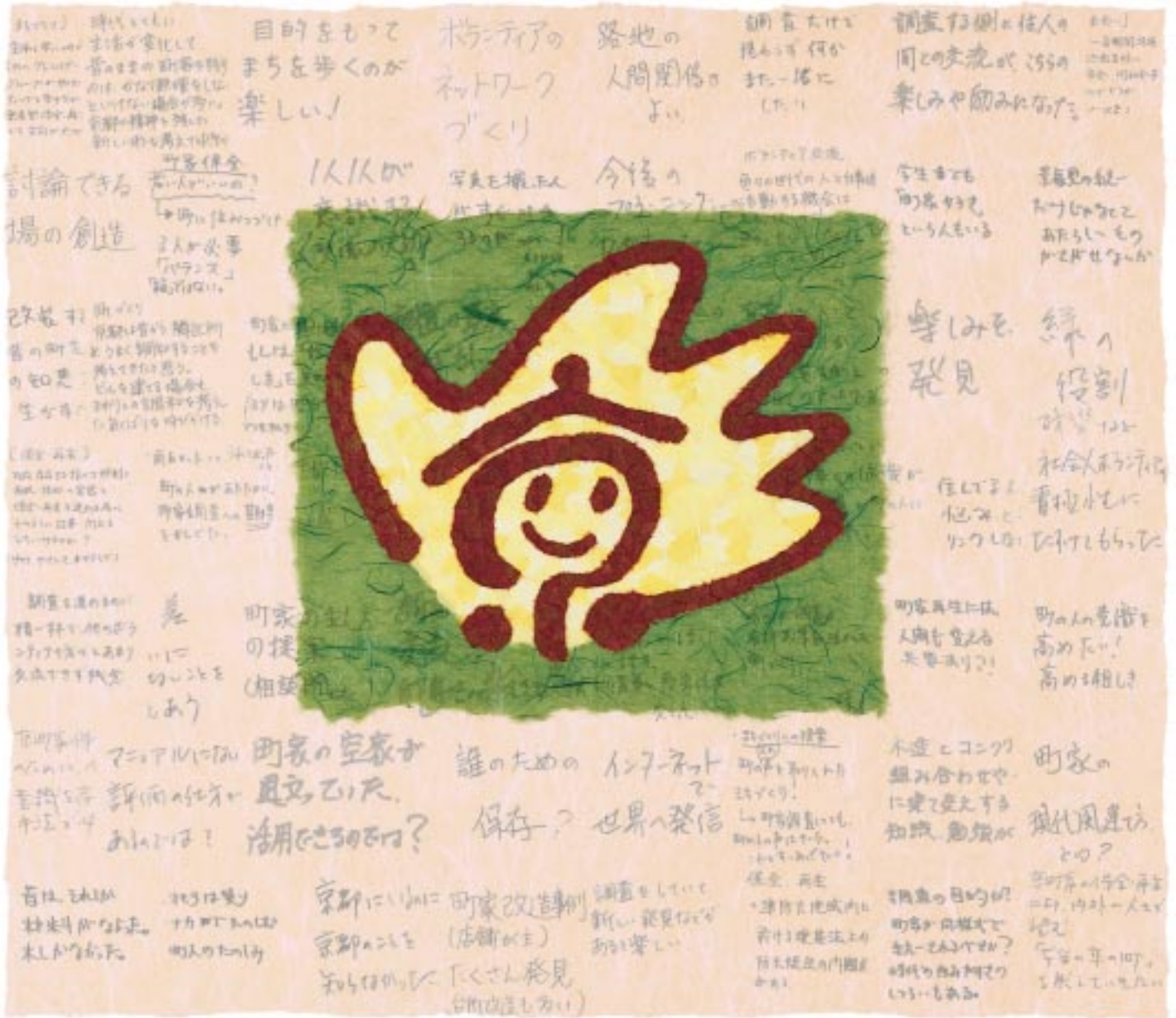
(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター



パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房一周年記念

～共に学び、共有し、実践するセンターに向けて～



昨年12月に創刊しましたニュースレター「京まち工房」も2年目を迎えました。センターでは、住民、企業、行政のパートナーシップによるまちづくりを推進するために、重要な課題となっているまちづくりの情報発信を、できるだけ豊富な内容で、わかりやすく、見やすくを心掛けて取り組んできました。また、情報を発信するだけでなく、京町家まちづくり調査や京都・学生まちづくりコンクール、まちづくり相談、専門家派遣などを通じて、多くのまちづくり活動に携わり、市民ネットワークの広がりも強く実感することができました。

センターの役割は、パートナーシップによるまちづくりに向けた、三者の「橋渡し」。これは、従来のまちづくりにはない新しい役割。このため、この1年間は多くのことを学び、そして多くの方からご意見を頂きました。その中で、橋渡しとして役割の重要性を再認識すると共に、多くの課題を見出すことができました。

「京まち工房」の1周年を迎え、気持ちも新たに皆さんと共に学び、共有し、実践するセンターとして、個性的で魅力的なまち・京都の再生に寄与していきたいと思えます。

あなたのまちづくり 拝見

東山・清水学区のまちづくり

～個性ある町並みの形成とともに、安全で住みよいまちを目指して～

住民主体のまちづくりを様々な視点から紹介するこのコーナー。今回は、清水寺や高台寺、石畳が美しい二年坂、産寧坂など京都を代表する観光資源のある清水学区のまちづくりです。自治連合会をはじめ、多くの組織が緩やかなネットワークで結ばれ、観光との共存を図りながら、防災を切り口にした活発なまちづくり活動を展開しています。



伝統的建造物群保存地区として指定されている産寧坂

観光地ならではのまちづくり

ここ清水学区は、京都への観光客なら誰もが一度は訪れる清水寺や高台寺等の有名な神社仏閣が存在することから、古くから門前町として栄え、長年にわたる多くの関係者の努力によって産寧坂等、現在の個性ある町並みが形成されてきました。

二年坂、産寧坂に立ち並ぶ商店によって構成される「東山散策道路を守る会」は30年程前に結成されて以来、伝統的な町並みを形成していくための活動を行ってきました。話し合いを重ねる中で、情緒ある町並みを保存していく方向で意見が一致し、昭和51年に伝統的建造物群保存地区として指定されました。

現在では、毎年、散策道周辺の観光案内図を作成し、各地の観光案内所に配布するなど、美しい町並みのPRに努めています。

新たなパートナーシップの始まり

清水学区は、観光地としてにぎわう一方で、高齢化、少子化が顕著であるとともに、地形的に坂道や路地が入り組み、防災上の課題が多い等、深刻な問題を抱える地域でもあります。これまでに、学区内の米屋さんやコンビニエンスストア等の協力を得て、水や米を災害時の炊き出し用に優先的に提供する先進的な取組が行われてきました。

平成8年度に、京都市が産寧坂伝統的建造物群保存地区の防災計画を策定するため、地域住民へのアンケート調査を行っ

たところ「防災は行政や自主防災会だけの問題ではない」「建物を強くしたり、消防設備を備えるだけが防災ではない」「防災は産寧坂だけではなく地域全体の課題である」等の意見が寄せられました。これらの意見を踏まえて、地域の自治連合会、消防分団、自主防災会等が集まって、従来の組織にとらわれない、防災をキーワードにした学区全体のまちづくり活動が開始

されました。立命館大学 乾研究室等の協力も得て、学区民が主体的に参加するワークショップを幾度となく設け、住民自身の手で地域の課題等を整理してきました。こうした活動によって学区民一人一人の「防災まちづくり」の認識が深まり、「清水安全・安心まちづくり実行委員会(あんあん会)」という新たなネットワークの結成へとつながったのです。



公園の計画について意見交換を行っている様子

住民参加による防災公園づくり

平成9年度には、高台寺の西側に計画されていた防災拠点としての公園整備について、ワークショップ方式での話し合いが何度も行われ、そこで集約された案に基づいて、平成10年7月に「高台寺公園」が完成しました。高台寺近辺の風情ある町並みにもなじむよう植栽や街灯、公衆トイレのデザイン上の工夫や地域の老人が利用できるゲートボール場、観光客も散策の合間に一息できるベンチ、耐震型防火水槽や防災器具庫の設置など、日常

は憩いのため、緊急時には防災拠点としての機能が盛り込まれた公園となっています。

また、ワークショップにおいては、ゴミ散在の原因ともなるごみ箱は最初から設置しないことや簡単な清掃は地域で行うこと等、管理・運営面についても協議されました。今後も、地域住民が管理・運営面で主体的に関わることを通じて、行政との継続的なパートナーシップのまちづくりにつながっていくことが期待されます。

これからのまちづくり

清水学区は、長年のまちづくりの経験を持ち、これまでの取組の成果として、まちづくりの方向性や課題も見えており、今後も、地域の個性を生かした主体的で多様なまちづくりの取組が期待されます。



ワークショップの意見を元に整備された高台寺公園

今後は、より多くの地域住民が参加しやすい場を設け、知恵や情報を交換し、具体的な取組を一つ一つ積み重ねていくことが清水学区のまちづくりのポイントになりそうです。

自治連合会会長 杉谷 博康さん

清水学区は、観光地であるという点でまちづくりの方向性もはっきりしており、住民等のまちづくりに対する意識も高い。しかし、最近では、昼の賑わいに対し、夜は観光客も店の人も少なくなり、緊急時に人がいないことによる不安も大きくなってきました。やはり、日頃の地域での人と人とのコミュニケーションが何よりも大事だと考えています。

お知恵拝借~

豊中駅前 まちづくり協議会

「商店街から発信するまちづくりパワー」

今回のお知恵拝借は、商業者が主体となってまちづくりを展開し、行政とのパートナーシップを実現している「豊中駅前まちづくり協議会」を報告します。

まちづくり活動の経緯

豊中駅前まちづくり協議会は、阪急宝塚線豊中駅前の商店街の衰退に危機感を持った商業者の有志が、昭和63年に勉強会を持ったことから始まります。翌年には「まちづくりビジョン(素案)」を発表し、地域全体のまちづくりを考える仕組みを呼びかけ、議論がはじまりました。



事務局長の入江修一さん。
豊中駅前まちづくりセンター2号館にて

平成7年には活動の成果として地域の将来像を「豊中駅前まちづくり構想」にまとめ、市長へ提案。同年に活動の拠点として豊中駅前まちづくりセンター1号館をオープン、翌年には2号館をオープンしました。

行政とのパートナーシップ

豊中市も、こうした住民主導のまちづくりを支援すべく「まちづくり条例」を制定し、豊中駅前まちづくり協議会を第1号の協議会に認定して、資金的、技術的援助を行ってきました。

まちづくり体制の充実

同協議会は構想推進調整部会、構想推進研究部会、リレー講座部会、まちづくりセンター部会、地区別まちづくり部会、音楽部会、

広報部会、商業部会、環境部会、まちの改善部会の計10部会を運営し、部会ごとに積極的にまちづくり活動を展開しています。会員は621名(商業者、住民、企業)で、会費等の収入により自力で活動費をまかなっています。

また、平成7年に市長に提案した構想の実現に向けて、事業課題について豊中市と協議を重ねるとともに、各種専門家を講師として招き、住民のためのリレー勉強会(全10回)を開催しています。その他にも「音楽を生み育てるまちづくり」にむけた音楽部会による秋のジャズフェスタの開催、地球環境問題に地域から積極的に取り組む環境部会による生ゴミ講座やガレージセール、花の植樹など、盛りだくさん。それぞれの部会は単体で活動しているのではなく、たとえば音楽部会はイベントによる活性化と集客を目指し、イベント会場を地区全体に分散させ、まちを歩いてもらい、まちの魅力を知らせてもらう機会を提供するなど、それぞれの部会が連動、魅力あるまちを目指して活動しています。



ジャズフェスタの同日行われた路上コンサート

まちづくりは人づくり

「まちづくりは人づくりですね」と豊中駅前まちづくり協議会事務局長の入江さん。もちろん、入江さんも店主です。「私たちは『行動する商業者』として、まちの魅力づくりに取り組んでいます。みんな商売しながらの活動ですよ。商店街としては、皆さんに回遊してもらってはじめて商売になります。このため、商店街の『線』だけでなく、豊中駅前地区一帯の『面』のまちづくりを実践しています。これからも、自分たちでまちを運営し、足元から自分たちのまちをよくしていきたいですね。」

商店街から発信するまちづくり

個人商店が並び、対面で物品を販売する商店街。ここは人と人の信頼関係による交流の場所でもあり、主体的にまちをよくしていこうというパワーの発信の場所としてさらなる発展を遂げようとしています。

参加しました!

女性大学『京のまち』講座

京都市女性総合センター「ウィングス京都」では、女性大学という学習の場を設け、誰もが生き生きと生きられる社会の実現を目指した、様々な講座を開講しています。

今回、センター評議員の京都府立大学の宗田好史先生が担当された『京のまち』の5回の講座に参加しました(当センターのまちづくりフレンドの方も参加しています)。



役割になりきって、主張を発表

『京のまち』講座は、まちづくりに関する知識だけでなく、まちづくりを実感することを目的としており、中京区を舞台としたまちづくりをそれぞれが疑似の役割を演じる「役割劇(ロールプレイングゲーム)」で考えていきました。

【1日目】講座の初日。京都の都心部について思うことを意見交換しました。25名の受講者は、京都の好きなどころ、嫌いなどころをそれぞれ確認。また、まちづくりの新しい流れについて、センターの小山専務理事より講義。その後ロールプレイングゲームの役割を分担しました。まちづくりを実践的に考えていく上で必要な土地所有者、借家人、法人、外来者、自治会長、市長、行政(専門家)の役割を、受講生一人一人が分担していくことになりました。

【2日目】それぞれの役になりきって、中京区のまちを見学しました。地図を片手に課題などをチェック。また京都市で進めている「職住ガイドプラン」についての解説を受けました。

【3日目】前回の見学と、役割としてまちに貢献していることや主張・提案を模造紙いっ

ばいにまとめました。

【4日目】受講生により発案された交通、高齢者・福祉、町並み、産業・観光のプロジェクトについて、それぞれのコアスタッフにより反対、無関心な人を賛同者に巻き込んでポイントを加算していく交渉(ネゴシエーション)ゲームをしました。ネゴシエーションは、相手の話を聴き、相手の立場を理解しながら納得させるテクニックが必要で、先生のアドバイスを受けながらそれぞれのプロジェクト賛同者を増やしていきました。

【5日目】前回までのロールプレイ、ネゴシエーションから学んだことを中京区ランドビジョンへの提言としてまとめました。これは要求型の提言ではなく、プロジェクトを実現させるためのプロセスを示す新しいタイプの提言方法です。

この講座を通して、まちづくりとはただ参加するだけでなく、お互いの立場をよく理解し、目標像をしっかりと確認した上で具体的な課題を協力して解決していくことが大事だと感じました。

京都・学生まちづくりコンクール

～全20グループが地域での学習・交流活動を終え、作品を提出～

京都市内の都心部（西陣・富有・明倫学区）や南部（高度集積地区内）をモデル地区に、学生に地域まちづくりの具体的な提案等を求める「京都・学生まちづくりコンクール」。応募・登録した全20グループ・141人は、9月の意見交歓会、10～11月の地域学習会、個別調査活動等の成果を作品にまとめ提出しました。審査結果は12月18日の表彰・発表会で披露されますが（



ニュースレター次号でも掲載予定）今回は作品提出までの学生の活動ぶりなどを地域別にお伝えします。

斬新でユニークなアイデアを期待 - 西陣学区

西陣学区では各グループとも旧西陣小学校の跡地利用を課題として認識しつつ、西陣織、町家、高齢者福祉などをキーワードにした提案が見られました。これまで住民によるまちづくり活動が行われ、外部からも様々な調査や提言を受けてきた西陣学区ですが、意見交歓会では地元の皆さんから学生側へ斬新でユニークなアイデアを期待する声が寄せられました。その後の学習活動は、グループごとに主に地元の方へのヒアリング調査を中心に進められました。

チームごとに作品案の提案・学習会活動を展開 - 富有学区

市内でも高齢化率の高い富有学区では、高齢者が暮らしやすい町、若い世代や子供達とのふれあいをテーマにするグループがいくつかあり、地域への聞き取り調査による現状把握・分析から具体的な提案がグループごとの学習会で行われました。なお、まちづくり交流部門へ唯一応募したグループがあり、作品イベントとして、御所南小学校あげてのまちづくり大カルタ大会が盛大に行われました。

合同学習会で最多チームが激突 - 明倫学区

最多の7グループが応募した明倫学区では、学区の歴史資源やアートを活かしたまちづくり提案が多く見られました。初顔合わせの意見交歓会では、地域側からアンケート調査への疑問や学生の計画案に対する甘さが指摘されましたが、中間発表となる合同学習会では、学生側のパネル等を駆使した説明に、「どのグループも非常によく考えてきた」と感心。計画案に対するさらに突っ込んだ議論が展開されたほか、グループ間の対抗意識を垣間見ることができました。

伏見旧市街との連携、環境に配慮した作品案を提案 - 南部

南部応募の学生グループは、元気な伏見桃山地域のまちづくり協議会ワーキングメンバー、情報プラザ「京まち-21」メンバー（6ページ参照）と意見交歓会、学習会を行いました。学習会では、意見交歓会での議論を受け、東西軸や伏見旧市街との連携に着目し、酒蔵や伏見の水（路）を生かしつつ、環境にも配慮した空間整備をはじめ、油小路通に計画されている高速道路についても地下化など大胆な提案に議論は沸騰しました。



[応募登録グループの内訳]

地区	チーム数	人数	大学名
西陣学区	4	30	立命館大学2, 京都府立大学, 同志社大学
富有学区	5	59	京都工芸繊維大学, 京都大学, 同志社大学, 平安女学院短期大学, 立命館大学
明倫学区	7	31	京都工芸繊維大学3, 立命館大学2, 京都大学, 京都府立大学
南部	4	21	立命館大学2, 京都芸術短期大学, 京都工芸繊維大学

「京町家まちづくり調査」

今春から開始し、約600名ものボランティア調査員、調査に応じただいた市民の方等、大変多くの方々にご協力いただいた京町家まちづくり調査ですが、11月8日をもって今年度の調査が終了いたしました。



中間報告会の様子

現在、外観調査、アンケート調査結果の入力・分析や、訪問調査の実施及び調査結果の報告会等へ向けて準備を行っているところです。

また、約80名の参加のもと開催された「京町家

まちづくり調査中間報告会」(10月2日)では、このような意見交流会をもっと開催してほしいという要望や、地域住民の方々へ調査結果の報告など多くの提案が出されました。

今後も、皆さんの積極的なご意見、ご提案、ご参加を頂き、京町家の保全・再生に向け取り組んでいきます。

建物類型別集計(平成10年9月現在集計分)

類型	件数	%
総二階	4,993	40%
中二階	1,471	12%
三階建	73	1%
平屋	916	7%
仕舞屋	887	7%
堀付	585	5%
看板建築	1,158	9%
その他	2,185	18%
未記入	130	1%
	12,398	100%

建物保存状態別集計(平成10年9月現在集計分)

保存状態	件数	%
外観が全て残っている	1,012	12%
いくつか残っている	2,957	35%
一つだけ残っている	1,828	22%
まったく残っていない	2,440	29%
未記入	103	1%
	8,340	100%

町家の保全・再生の事例

今あるものを上手に使う

和田貴金属宝飾店 (中京区蛸薬師通麩屋町東入)



「この家で明治45年から宝飾の製造卸をしてきましたが、バブルの最中、小売に展開することを契機に建物の方もどうしたものかと考え始めました。仕事柄ヨーロッパに行く機会が多いのですが、古い建物でも一歩中に入ると最先端の空間に仕立て上げているのを見て、なんと木造でもできないかと思っていました。周囲がビルに変わっていくのを見て、当然、ビルにすることも検討しましたが、ビルでは東京や大阪に勝負できません。京都のイメージを大切にしたい、町家を壊すのではなく、工夫して使うことに価値があるのではないかと考えがまとまるのに3年かかり、8年前に表の店舗部分を改装しました。」

格子やむしこ窓*といった町家の要素を残しながら、ガラスのドアやショーウィンドウを取り入れた外観。一歩中に入ると、石張りの床には洒落た家具が置かれ、漆喰壁と木造の梁によるコントラストが店内を引き締めています。カウンターの脇

の坪庭越しに土蔵の扉を見ることが出来ます。

「現在、3世代6人がこの家に暮らしていますが、そろそろ、住まいの方にも手を入れようかなと考えています。自然の風や光を大切にしたいですね。町家は寒いと言われますが、多少すま風がある方が体には良いのかも知れません。家族は皆元気で。」

京都の全てが木造の町家である必要は無いと思いますが、今あるものを上手に使う、この工夫を積み重ねることに意味があると思います。こんな事を言うのは、生まれてこのかたこの家で暮し、このまちに育ったからかもしれませんが...」

漆喰の壁には三田村宗二氏**が描いたこのお店の絵が大切に飾られていました。



モダンな内装の店舗から望める美しい坪庭



改装され店舗に生れ変わった町家の内部。三田村氏の絵がかかっている。

* むしこ窓:

つし2階の正面に設けられた窓で、堅格子を土で塗り込めたもの。本来「むしこ」とは、虫かご、または蒸籠の底に敷く藁貫(よしず)を受ける格子のこと。

** 三田村宗二氏(1938~1996):

京都西陣生まれ。京町家を描き続け、作品集として「百家百住」他が京都書院から出版されている。

フレンズニュース創刊!!

「まちづくりフレンズ」が手作りによるニュースレターを発行

まちづくりフレンズには、現在76名の登録があります。これまで、京町家まちづくり調査の調査員、ヘンリー・サノフを講師に迎えて実施した研修の運営補助、京都・学生まちづくりコンクールの企画・運営スタッフなど、センターの事業に積極的に参加され、活躍されています。

このようなセンター事業の支援を行う中で、自分たち独自の活動も行うおうという気運が盛り上がり、まずは、フレンズ同士の交流をもっと図りたい、情報交換を密にしたいということで、「フレンズニュース」の発行が、有志の皆さんで、企画されました。

去る10月9日、6時から、センターの会議室に有志の方々10数名が原稿を持ちより、その場で編集長や校正係などの分担を決めて、ワイワイガヤガヤ、3時間で、創刊号を仕上げました。

まちづくりに寄せる思いや、センター事業に参加しての感想、各個人がそれぞれのネットワークで得た情報などが満載されています。

「楽しい雰囲気の中で創刊号ができました。第2号も同じような形で作りたいたいし、今度は、フレンズ全員に参加を呼びかけたいと思います」と参加者の感想。

第2号は11月6日に、新しい参加者も加え、前号と同様の盛り上がりの中で作成されました。

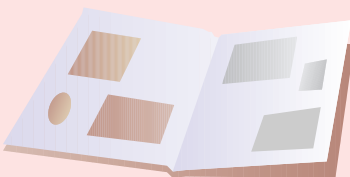
記事の中には、フレンズが主催するまちづくりツアーへの参加募集もあり、これからのフレンズの活発な活動が期待されます。



創刊号を前にしてのフレンズ有志

京のまちの今昔物語

一条通智恵光院西入の辺り・・・昭和40年頃。格子が改修され、町並みが変化し始めている。当時としては、新しい風景であった。車を引きながら野菜を売る人の姿もまた、当時の生活を思い出させる。今ではこのような町の姿が少なくなりつつある。



「京のまちの今昔物語」では皆さんがお持ちの昔の写真の切り口にして、現在の京都の問題点を再確認できたらと思います。皆さんもお宅のアルバムの古い写真を探し出してぜひ投稿してください。



今回は写真家・松尾弘子さんから写真とコメントをいただきました。

『まちづくり交流』

住民、企業、行政のパートナーシップのまちづくりが求められる中、果たして企業に必要とされる役割は何なのか。今回は、企業として地域のまちづくりへの関わり方を模索し、行政と一緒に「パートナーシップのまちづくり」を考える情報プラザ「京のまち-21」の取組を紹介します。

行政と企業が対等な立場でまちづくりについて論議

情報プラザ「京のまち-21」は、主に京都市のインテリジェントシティ化に関わるまちづくり*についての意見交換・情報交換を行う事を目的に、建設省、京都市、参加企業の賛意により、平成4年7月に発足し、現在、民間企業19社、2団体、京都市で構成されています。平成7年度までは先進事例の視察や情報交換等のフォーラムを行ってきましたが、平成8年度からは、インテリジェントシティ整備の推進を京都の「まちづくり」という幅広い視野の中に位置付け、そのベースとなる「市民・企業・行政の協働(パートナーシップ)のよるまちづくり」をテーマにグループ別ディスカッション等を重ねてきました。さらに平成9年度は、企業とまちづくりセンターの関わり方について、情報化も含めたセンターの機能・役割等について検討。ここでは、行政と企業が対等な立場でまちづくりのテーマについての論議を行うことができる場が形成されています。

また、昨年8月には、KJ法の生みの親である川喜田二郎氏へヒアリングを独自に行い、まち

づくりに住民の声を取り込むシステムについての調査も行いました。



京都・学生まちづくりコンクール南部地区学習会のもよう

パートナーシップのまちづくりの知恵袋的な存在を目指して

今年度は、「まちづくり」に京都発の新しい動きを生み出すことを視野に入れ、「まちづくり」における企業の新しいミッションの模索、パートナーシップのあり方について、企業の参画が今後求められる高度集積地区を対象に探っていくこととしています。その一環として、

「京都・学生まちづくりコンクール」の南部地区で、意見交流会や学習会にオブザーバー参加し、学生の生の声に触れながら、まちづくりの新しい動きを知り、企業の参画可能性について考える一方、従来の都市開発の経験等を踏まえた民間企業ならではの視点、アドバイス等を学生に提供しています。

地域コミュニティの運営やまちづくりを推進していく上での合意形成をはじめ、まちづくりの様々な局面において、企業を含めた市民と行政のパートナーシップが求められる今、情報プラザ「京のまち-21」のようなネットワークを通じて、企業が主体的、積極的にまちづくりに参画することが今後ますます重要となってくるのではないのでしょうか。「今後は会の特徴を生かし、パートナーシップのまちづくりの知恵袋的な存在を目指して、ここでしかやり得ない活動を行って行ければ」とメンバーの一人は語っておられました。

*インテリジェントシティ化に関わるまちづくり：高度情報化の進展に的確に対応した都市整備を推進するため、昭和61年から建設省により整備推進事業が開始された。

参加企業

- 大阪ガス(株)
- (株)大林組
- 沖電気工業(株)
- 関西電力(株)
- (株)鴻池組
- 清水建設(株)
- 住友電気工業(株)
- 住友不動産(株)
- セコム(株)
- (株)銭高組
- 大成建設(株)

- 戸田建設(株)
- 西松建設(株)
- 日本生命保険相互会社
- 日本電気(株)
- (株)日立製作所
- 富士通(株)
- 松下電器産業(株)
- 山武ハネウエル(株)

その他団体

- 住宅都市整備公団
- (財)都市みらい推進機構
- 京都市都市計画局

まちづくり提案

新しいコミュニケーションと人づくり

京都・公共交通利用を促進する会
～京都の観光地を歩くために～

京都市は日本有数の観光地。観光シーズンには、多くの観光地周辺でマイカーによる交通渋滞が起こっています。

今回のまちづくり提案では、公共交通を使って効率的に観光地を巡れる「時刻表」を作成した『京都・公共交通利用を促進する会』の窓口をされている京都大学大学院工学研究科助教の中川大先生にお話を伺いました。



平日版(左)と土曜・日祝版(右)

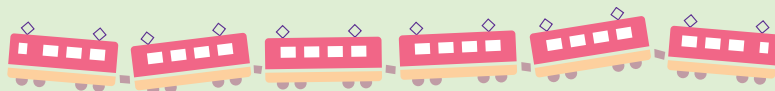
京都の観光地は、公共交通で便利にまわることができるにも関わらず、路線網が複雑でたくさんの経路があるため、詳しい人でなければ利用しにくいのが現状です。例えば嵐山から大原へ行くときは、10通り以上のルートがあり、どのルートを利用するかという選択は京都市民でも難しくなっています。

そこで、同会では路線網に詳しくない人にももっと公共交通で京都観光を楽しんでもらおうと『京都観光地巡り時刻表』を作成しました。

この時刻表は、京都駅から大原、大原から金閣寺などの京都の観光地を結ぶ区間ごとに時刻表が作成されており、自分の移動したい区間のページを見れば、出発時刻や到着時刻、利用経路、所要時間を一目で知ることができ、京都観光の計画を立てるのに便利なものとなっています。

この時刻表は、京都市内の全ての鉄道・バス路線の時刻表をデータとして、もっとも早く到着する経路をコンピューターで算出して作成されました。

中川先生曰く「この時刻表は、公共交通での京都観光が増えてくれることを直接の目的として作成しましたが、一日乗車券などの利



用が増えることによって交通事業者側のサービスの拡大、向上につながってくれることも期待しています。例えば、阪急・JR・嵐電・叡電なども利用できる共通一日券の発行や、家族バスの創設、乗り継ぎ割引の拡大などです。京都は地球温暖化防止国際会議の開催都市にふさわしい、世界に率先した公共交通施策を打ち出していく責任があると思います。ぜひ、色々な試みを行って欲しいですね。」

また、京都観光の醍醐味は、ゆとりを持って歩くことにより、多くの人や物とふれあい、刺激を受けることにあります。このため公共交通サービスの一層の充実とあわせて、安心して快適に歩ける環境を整える必要があります。「本当の京都を見よと思ったら、歩かんとあかんえ」と胸を張っていえるような都市になって欲しいものです。



お問い合わせ：京都・公共交通利用を促進する会
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/pubtra/
E-mail: pubtra@mbox.kyoto-inet.or.jp

購入方法：京都市観光案内所、京都市交通局の案内所、京都バスの案内所等
(平日版500円、土曜・日祝版700円(税込み))

ニュービジネスの動向

このコーナーでは、ビジネス界で新しく立ち上がった、もしくは企画段階の新発想のビジネスの動向についてインタビューによる紹介を行います。

株式会社

ウペポ & マジ株式会社

代表取締役 一筆芳巳氏

どのようなことをされている会社ですか

インクジェットプリンタ

用インクを設計・開発し、

製造・供給していく会社で

す。紙だけでなく絹やポリ

エステル等の様々な生地にも

プリント染色できるインク

を開発しており、通常使

われているプリンタに当社で開発したインクを

セットすれば、家庭でも簡単に印刷できます。

通常のインクでは、洗濯をしたり汗をかいたり

すると、色落ちてしまいます。私たちは、JIS

規格に基づいて、耐光、耐洗濯、耐汗、耐摩擦、

耐ドライクリーニング、耐水の試験データをと

り、インク性能を流通に耐えられるまで高め、

かつ、このインクがインクジェットプリンタで

使えるものにするという2つの開発目標を掲げ

てきました。このように汗や洗濯によって色落

ちしないのがこのインクの特徴で、ネクタイや

スカーフ等はもちろんテキスタイル全般に応用

できます。また、高度成長期には、色や柄毎に

型を起こして大量生産しても、同じ色や柄のも

のがドンドン売れましたが、現在では大量生産

した結果、過剰在庫、バーゲン売れ残りという

状況になっています。ところがこの染色方法は、

型を起こす必要がなく、短時間に低コストで1



タペストリー(綿100%にプリントしたもの)

枚からプリントでき、在庫を持つ必要もなくなります。その他にも、インクの量をコンピュータが制御するため、無駄なく使え、また環境にも優しいというのも特徴になっています。皆さんが新しいプリント染色方法を模索される中で、私たちはインクジェットの技術に応用する方法を選択しました。今まで解像度の高いプリンタの出現がなかったことからアパレル業界への提案が遅れていましたが、その問題も解決されました。これからはこの技術を生かして、本来の目的でもありますが、アウトドア系の旗やのぼりにも応用し、雨や紫外線が当たっても色落ちしないというものを提案しようと考えています。

一風変わったお名前ですね。

スワヒリ語で、ウペポとは「風」、マジとは「水」の意味です。京都はもともと東の青龍、西の白虎、南の朱雀、北の玄武、そして中心に平安の都が栄えたという、中国からの思想である風水によってできたまちであり、当社の立地する場所はかつての京都の中心地に当たります。そのようなことからこの名前を付けました。また、それと同時に、百年の計にたち、東西南北にちなんで視覚、聴覚、味覚、嗅覚に関する4つの事業部門をつくりました。まだ視覚category製品事業部しが立ち上がっていませんが、インクの性能を追求していくのはもちろん

のこと、人間の「見る」という行為に満足いただけるような製品をつくり続けていきたいと思っています。

昨年新築した当社の建物も、風水思想から鬼門方向の角を取り、曲線を用いて風が流れるように配慮して設計しました。風水思想を信じているという訳ではありませんが、昔からの言い伝えは何か根拠があると思いますし、良いと言われることは取って拒否する必要はないかと思っています。

今後の事業展開について教えてください。

まずはこの技術を知ってもらいたいと考えています。知らないがゆえに、迷ったり困ったりされている方がたくさんおられるようなので、少しずつでも分かっていたらと思います。そして、将来的には、コンクリートや石、アスファルト等、様々なものに印刷できるインクを開発をしていこうと考えていますが、今は、あれもこれもとなると手付かずの状態になるので、テキスタイルという1つのマーケットに集中しようと考えています。

私たちの事業はあくまで染色業のための化学メーカーとうたっています。伝統的な京都の繊維染色の世界とこれから訪れるデジタル化の波をできるだけ融合させて、京都にいいもの残しつつ、全世界に広げていきたいと思っています。このような地場産業の活性化がまちの活性化につながることを期待しています。



開発されたインクジェットプリンタ用インク

《センター解説アワー》

京都市のゴミ処理計画

環境共生にむけた様々な取組が始まった今日、これからのまちづくりを考える上でゴミ問題は大変重要になってきています。今回はその中でも目にふれることの少ない京都市のゴミ処理計画について学習します。

まず、平成10年度に京都市が処理する廃棄物の処理量は、以下のように見込まれています。

- (1) ごみ 826,250t / 年
- (2) 犬、猫等の死体及び実験用動物の死体
(犬猫) 11,200個 / 年 (実験用動物) 24t / 年
- (3) し尿及び浄化槽汚泥 47,900キロリットル / 年

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第6条において、こうした膨大なゴミを処理するため一般廃棄物処理計画の策定が市町村に義務付けられています。

一般廃棄物処理計画は、基本的な事項について定める基本計画と、基本計画の実施のために必要な各年度の事業について定める実施計画とに分けて策定しなければならないこととされており、計画には、

- (1) 一般廃棄物の発生量及び処理量の見込み
- (2) 一般廃棄物の排出の抑制のための方策に関する事項
- (3) 分別して収集するものとした一般廃棄物の種類及び分別の区別
- (4) 一般廃棄物の適正な処理及びこれを実施する者に関する基本的事項

(5) 一般廃棄物の処理施設の整備に関する事項

(6) その他一般廃棄物の処理に関し必要な事項

を定めるものとされています。

京都市においても、基本計画と年度ごとの実施計画を策定し、排出された廃棄物(すなわち「ごみ」)を適正に処理するとともに、ごみの発生抑制や再資源化(リサイクル)に取り組んでいます。しかし、京都市におけるごみの処理量は、わずかずつですが増加しているのも事実です。

ごみは、私たち市民一人一人の日常生活や日々の事業活動に伴って発生するものです。従って、ごみを減らして、リサイクルを進めていくには、市民や事業者の方々の協力が不可欠です。

一般廃棄物処理計画のうち、基本的な事項について定める基本計画は目標年次を概ね10年先に置く中期の計画という性格がありますが、京都市ではこれに加えて、さらに長期的な展望に立った廃棄物行政の総合的ビジョンとして、平成10年5月に「京都市一般廃棄物処理基本構想」を発表しました。

これは、京都市廃棄物減量等推進審議会から平成10年3月に受けた提言「今後の清掃事業のあり方について」を踏まえたもので、環境意識が定着した循環型社会の実現を目指していくため、新たなごみ処理行政のあり方と取組方向や市民のライフスタイル、事業活動のあり方への提案をも含めたものとなっています。本構想では、循環型社会の実現に向けては、「環境意識」の定着が市民の日常生活や企業の行動規範として根付くことが不可欠であるとしていますが、このことは、京町家のように自然との調和の中に快適さ、心地よさを求める生活技術や「もの」を大切にする価値観といった、京都における「暮らし方の知恵」を一人一人の生活によみがえらせることと言い換えることもできるでしょう。

私と京都



(財)京都市景観・まちづくりセンター 評議員
梶田 真章
法然院貫主

八角九重の塔の再建を夢見る

私は通称「黒谷さん」と呼ばれている浄土宗大本山金戒光明寺の塔頭に生まれ育ちました。

黒谷の境内は、子供にとっては格好の遊び場で、学校から帰るとすぐに表へ飛び出して、日が暮れるまで、ボール遊びやビー玉や鬼ごっこなどに興じておりました。

大学入学以後は大文字山の西側に連なる善気山を境内とする法然院に住むことになりましたが、緑と歴史的建造物に囲まれて、京都の中でも環境に恵まれた場所に暮らしてまいりましたことをつくづく幸せに感じております。

1175年、法然上人は比叡山西塔黒谷で専修念佛(阿弥陀佛にいのちをあずける一切の生きとし生けるものを佛にならせるという阿弥陀佛の本願を信じて、もっぱら南無阿弥陀佛を唱えること)の教えを悟られ、比叡山を下って栗原岡に立って西に向かって念佛を唱えられたところ、空に紫雲がたなびいたと伝えられておりますが、この栗原岡が現在の黒谷の境内で、丘の上の塔頭、西雲院の境内にはその折りに法然上人が腰掛けられたという「紫雲石(しうんせき)」が残っています。

このときに法然上人は眼下にどのような京都

の光景を眺められたのでしょうか。

黒谷のすぐ南に位置する現在の岡崎文化ゾーンには、11世紀後半から12世紀前半にかけて相次いで建立された、前期院政時代の記念碑的存在、当時の人々の汗と涙の結晶である六勝寺(白河天皇の法勝寺・堀河天皇の尊勝寺・鳥羽天皇の最勝寺・鳥羽天皇中宮持賢門院璋子の円勝寺・崇徳天皇の成勝寺・近衛天皇の延勝寺)の壮麗な伽藍が立ち並んでいたことでしょう。

とりわけ法勝寺の池の中島に建てられていた高さ80メートル以上と推定される八角九重塔は異彩を放っていたのではないのでしょうか。

現在の京都市動物園のあたりが法勝寺の境内だったようです。

「動物園を移転して、八角九重塔を再建、そこを全国から納骨を受け入れる共同墓地として整備し、墓参者が全国から訪れ、塔のまわりには落葉広葉樹の森が広がっている。そんなわがままな夢を含め、数多くある寺が開かれた共同体としてそれぞれの個性を生かし、真の意味で自分自身を見つめ直していただく人々の心の安らぎの場となって市民の生活とともにある。」

そんな京都の姿を勝手に夢見て、自分なりに寺をあずかってゆきたく思っております。

センター語録

景観・まちづくりセンターが発足して1年余り、ニュースレター「京まち工房」も今号で1周年を迎えました。振り返ってみると、京都のまちづくりについて幅広く、地域の取組から世界にはばたこうとするニュービジネスまで、非常に多様な観点から多彩な情報をお届けできたのではないかと自負しています。ただ、読者からの反応が少ないのが少し気になるところで、今後もっと双方向的な企画も紙面上で実現できればと思います。

ところで、連続でご紹介している「京都・学生まちづくりコンクール」。発行時期の都合上、プレゼン(作品発表)の模様や審査結果をお伝えできないのが残念ですが、それにしても学生さん達の緻密に構築された提案・アイデアの数々、堂々たる発表態度には驚かされます。ただ、コンクールとして作品内容を競うだけでなく、地域というフィールドに出て、そこに暮らす人々と向き合い、一緒になってまちづくりを考えたことは、どのチームにとっても貴重な体験となったのではないのでしょうか。

何年か先、地域を訪れた時自分たちのアイデアがまちのどこかに咲いていたとしたら、感動もまたひとしおでしょうね。(景観・まちづくりセンター事務局 N・Y)



センターからのお知らせ

賛助会員の募集 (平成10年度分)

京都のまちづくりに貢献したい! センターの活動を応援したい! そんなあなたの熱意をお待ちしています。

(特典)

- ・ニュースレター(年4回・季刊)の送付
- ・ニュースレターでの活動紹介
- ・シンポジウム、セミナー等への優待

(年会費)

個人1口: 5千円 団体1口: 5万円
(平成10年4月~平成11年3月)

まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくり活動において、各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。

お寄せください ご投稿・ご意見

ニュースレターを盛り上げるご投稿や、京都のまちづくり、センターに対するご意見・ご提案をお待ちしています。Eメールもご利用下さい。

投稿の方法

原稿や写真等の資料とコーナー名・住所・氏名・年齢・電話番号・匿名希望の有無(有りの場合はペンネーム)を明記し、「京まち工房」係までお送りください。封書・はがき、又はFAXでも結構です。紙面の都合上、全てを掲載できないこともあります。

(財)京都市景観・まちづくりセンター 京まち工房 案内



〒604-0846 京都市中京区両替町通押小路下る金吹町452(元龍池小学校内1階南側)

TEL 075-212-4031

(支援・参加・人づくり)

FAX 075-212-4047

e-mail: kyoto-ws@mbox.kyoto-inet.or.jp

相談の受付等

月~金(祝日を除く)の9:00~17:00

来所される場合はなるべく事前にお電話ください。

なお、駐車場はありませんので地下鉄等をご利用下さい。

ニュースレター 京まち工房 第5号 1998年12月

編集・発行 (財)京都市景観・まちづくりセンター

印刷 日本写真印刷株式会社